

近畿大豊岡女子短大 ○山崎純子 中島園子

目的 昔はそれだけには深い意味のあった食生活も環境の変化により現在では加速度的に古くから伝った食生活は大きな変化。流動が生活のあらゆる面に起きていゝる。香港においては国際的都市であるだけに中国の歴史をそのままの食文化で見られる。このように日本よりかはるかに中国の仕方には日本と香港においで大きな違いが見られる。深い知恵のある習慣食生活の対応の仕方には日本と香港の食生活を今一度ふりかえる必要を感じた。

方法 S41~54年、更に55年の各季に訪香シマケットの奥路を見聞し、及び前報にっついて九龍蘇屋村、蘭花樓に居住する中流家庭28世帯の協力を得てその日常の食事の状況と食生活の背景を大家族で囲む飲茶を中心として楊兆錕氏を通じて調査を行った。調査にかたくな飲茶をやる機会とその状況について楊氏を通じて採見聞、体験しその背景にあるものを伺い知ることを得た。又、左巻中に香煙新聞の食のコラムなどを収集しその思想的背景を知る資料とした。

結果 第Ⅰ報に比べて時代や環境の変化にも影響ささない食生活の背景には食に対する哲学を持って居る事が感じられた。大家族の飲茶の卓においでもひとりずつに叶った食生活の方が料理の取捨選択に表われている。この背景にあるものの大きな要因の一つとして食の源の思想に更に加えて敬老、親孝行の思想が30年を過ぎても深く根づいていゝことがあつた。その状態について大家族で囲む飲茶の食生活及び朝、昼、夕、夜の同じ店で厭立の違つた香港における独特のパターンを加えて報告したい。